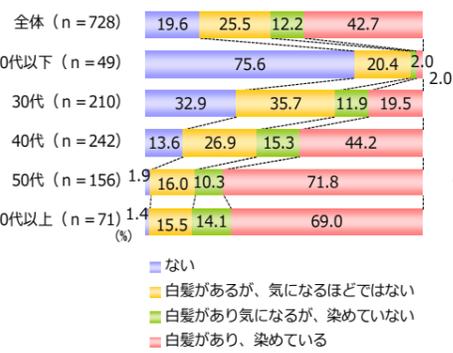


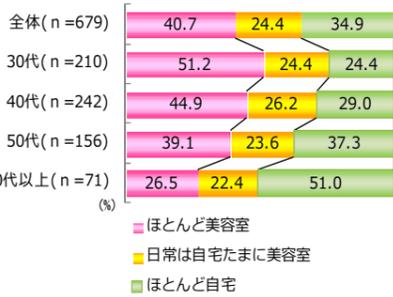
### 01 Woman's Trend

## 白髪は染めるけど、薄毛・抜け毛は「実感しているけど対策していない」人が3割強 白髪対策は50代、薄毛・抜け毛対策は60代以降で

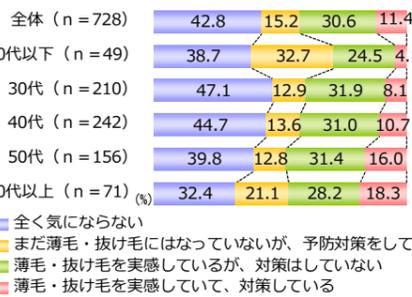
Q. あなたは白髪がありますか？



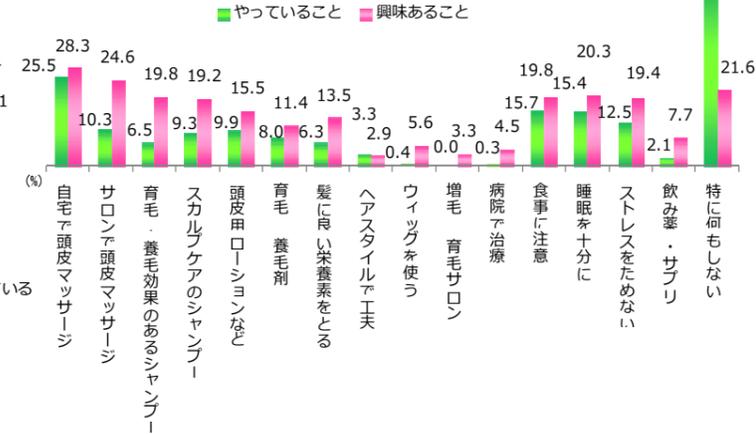
Q. 白髪染めは主にどこで？



Q. 薄毛・抜け毛は気になりますか？



Q. 薄毛・抜け毛対策、やっていることと興味あること



2015.08.07~08.09  
女性を対象にWEB調査 (n=728)

お肌より老いを隠しにくいのが髪。年代別にヘアケアの悩みを確認してみた。

白髪は30代でも気になっている人が3割出てくる。40代になると気になる人が半数を超え44%が染めている。50代が、白髪染めをする人が最も多く、60代になると開き直る人も少し出てきたと推察できる。ただ、白髪染めをいつまでしたいと思うかと聞けば、ずっと染めたいという人が42%に上った。

白髪染めの頻度は月1回程度が一般的。60代以上になると月2回染める人が25%出てくる。それに比例して、自宅で染める人が60代以上で半数に。美容室で3か月に一度程度染めて、あとは月1回自宅で部分染めというところだろうか。白髪染めのためだけに行く美容室がある人は30代と50代で1割強出現したが、8割方はいつもの美容室でついでに白髪染めもしている。クーポンなどの特典で探す美容室ジプシーは40代のみ2割近く出現。

もうひとつの悩み、薄毛・抜け毛は、50代で実感している人が半数近くになる。「実感しているのに対策をしていない」人が30、40、50代ともそれぞれ3割強。「実感していないのに対策している」人は30代以降年齢に比例して多くなっていく(20代以下はn数が少ないので参考値)。

対策は全員に聞いたので「何もしない」が多くなっているが、対策している中で最も多いのは「自宅で頭皮マッサージ」。あとは食事や睡眠といった日々の生活を注意するくらいで、対策しているといってもこの程度だ。興味あることも自宅やサロンでの頭皮マッサージやそれ用のシャンプーに集中し、増毛など積極的な対策はあまり考えていない。

女性の場合、自分には見えない頭頂部が多いこともあって積極的な対策は考えず、オシャレにも使えるウィッグのほうが、むしろハードルが低いようだ。(所長/植田奈保子)

### くらしHOWネット会議室「白髪・薄毛対策」から髪にも地肌にももっと優しい白髪染めを!

**み～やんさん**  
45歳ですが、42歳くらいから白髪が気になりだして染め始めました。3ヶ月に1回くらい美容院で、あとは気になるときに自宅で染めます。洗髪したときの抜け毛が少し気になって、ときどき美容院でヘッドスパをしています。

**くつきさん**  
47歳、30代後半から白髪が気になりだして、その頃から染めだしました。月に1回家で部分染めをして、2か月に1回、美容院で染めています。自分では染め残したりして、うまく染められません。抜け毛はまだ深刻ではありません。

**りんりんさん**  
45歳、30代後半から気になりだしてヘアカラートリートメントを使いたしたのも、その頃。部分だけなので、最近では自宅のみ染めています。40を過ぎてから前頭部は産毛みたいな感じがでて、地肌が少し気になりだして、分け目を定期的に変えています。たまにヘッドマッサージをもらうけど、効き目は良くわかりません。紫外線も気になるので帽子をかぶるけど、ムレが心配です。

**み～やんさん**  
市販の白髪染めはワンタッチヘアカラーのクリームタイプ、残ったら次回に使えるので部分染めにいいです。でも市販のものは髪が傷むと聞くので、値段との折り合いで試しています。部分的に塗りやすいマスカラタイプでしっかり染まるのが欲しいけど、いいのに出会ってません。

**くつきさん**  
泡タイプを使ったりしてましたが、最近は次回も使えるものを買うことが多いです。少し高いウエラの製品はツヤが出て良かったけど、普段は特売している製品が目がいったり。割といろいろ試しています。マスカラタイプもよく使いますが、髪が固まったり、色が乗らなかつたりするので、カバー力のある製品を望みます。

**りんりんさん**  
私は前頭部だけに白髪が集中してるので、ワンタッチタイプで染まりも持ちも満足ですが、匂いがきつくと翌日も気になるのと、最近その部分の髪が減ってきたような気がして、地肌が弱っているのではと不安です。もう少し白髪が増えてきたら、美容院も視野に入れようと思います。

2015.08.19実施 くらしHOWネット会議室「白髪・薄毛対策」発言録より抜粋。全発言録はくらしHOWサイトで公開中

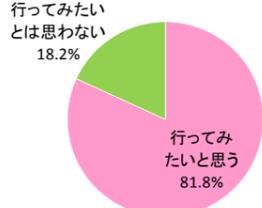
### 02 Woman's Data

#### 【OLのキモチ】

## 統合型リゾート「行ってみたい」が8割強

国会にIR推進法案が提出され、その実現が注目される統合型リゾート(IR)。OLへの調査で、日本にIRができたなら行ってみたい人は62.5% (n=1023) だった。その後、シティリビングのイベント「OL夏祭り」でIRを紹介するブースやトークショーを展開。「OL夏祭り」参加者への調査(右記)では、行ってみたい人が8割強となった。IRについて詳しく知り、魅力を感じた人が多かったようだ。

【日本にIRができたなら行ってみたい?】



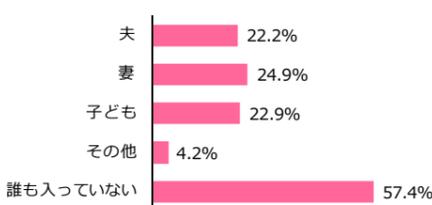
2015.07.31~08.04 シティリビング調べ  
首都圏のOLを対象にWEBアンケート (n=121)  
※IRとはIntegrated Resorts (統合型リゾート) の略

#### 【女性のキモチ】

## 自転車事故の備えがない家族は約6割

全国の女性に、自転車にひやっとした経験を聞いてみたところ、約75.0%があると回答。また、高校生以下の子供がいる人(n=148)の7割強は、自分の子供の自転車マナーに不安を感じている。とはいえ、自転車事故の保障付き保険に、家族の誰も入っていない人は約6割と多い。心配しつつも、備えはまだまだという実態が見えた。

【あなたの家庭で、自転車事故に対する保障が付いた保険に入っている人は?】(複数回答)



2015.07.30~08.02 リビングくらしHOW研究所調べ  
全国の女性を対象にWEBアンケート (n=711)

### 03 Group Eyes

## 便利帳だけじゃない 領域広がる行政協働ビジネス

サンケイリビング新聞社では、2005年3月に日本初の官民協働による『横浜市暮らしのガイド with Living Eye』を発行して以来、行政とのさまざまな「協働事業」において規模・領域を拡大させている。

基本は、地方自治体の転入者向け便利帳や母親向け子育てガイドなどに、当社が広告を獲得し行政の負担コストを低減する仕組みが「協働事業」の中心ではあるが、次第にシティプロモーションを目的としたPR冊子発行・ホームページ制作運営、そして町おこしイベントの実施、さらには転入促進のための県外向けメディアミックスキャンペーンの一括受託まで行政協働の仕組みが広がっている。

各行政機関の抱える課題は年々多様化・高度化しており、それに応える提案ができるのは、サンケイリビング新聞社の40年以上に及ぶ地域生活情報紙発行の経験やノウハウ、そして地元からの信頼が元となっているからだ。紙・インターネット・人の3つをリアル

に結びつけることができる弊社にとって、他にまねのできない高品質なサービスを提供できる領域であることは確かだ。  
(サンケイリビング新聞社CC室)

#### 直近の実施決定案件

- ▶「さいたま市ガイドブック2015」(H25年10月/57,000部)
  - ▶「武蔵野市わたしの便利帳(平成28年版)」(H28年3月/110,000部全戸配布)
  - ▶千葉県「ちばに住もうキャンペーン」(電子ブック制作)
  - ▶大田区・川崎市観光まちづくり連携事業(回遊性促進・食イベント/旧東海道ウォーキング)
  - ▶茨城県つくば地域振興課TX沿線移住促進PR
- ※その他詳細は弊社ホームページトップの「行政協働事業」から  
http://www.sankeiliving.co.jp/



今年6月1日に行われた全国の行政担当者向けの弊社主催の行政協働セミナーの様子